2 確かな学力の育成

複雑で変化の激しい現代社会に子どもたちが主体的に関わり、よりよい社会を創造していくためには、一人ひとりが基礎的・基本的な知識・技能を習得し、自ら課題を見付け、他者との協働的な学習を通して主体的によりよく問題を解決する力を身に付けることが大切です。

そのためには、学習に向かう子どもの思いや願いに応え、教師の働きかけを工夫することやＩＣＴを活用して自ら学びを進める力を育成することなどを通して、「わかった」「できた」を実感でき、「もっと学びたい」につながる授業を構築することが重要です。また、多様な考え方を受け入れ、様々な人々と協働して社会を創ろうとする態度をはぐくむためには、各教科等において様々な文化や価値観、生き方にふれ、思いや考えを伝え合う機会の充実を図ることが大切です。

２－１ 学習指導の充実　　２－２ ＩＣＴを活用した教育の推進
２－３ グローバル化に対応した教育の推進

２－１ 学習指導の充実

目指す授業のイメージ

「わかった」「できた」を実感でき、「もっと学びたい」につながる授業

子どもたちが、安心して自分の思いや考えを表現したり、互いのよさを認め合いながら学びをつくり上げたりすることができるよう、生徒指導の機能を生かした授業を構築することが大切です。

その上で、子どもが課題解決の喜びを実感し、新たな課題を見いだしたり、進んで学習方法を工夫するなど、自ら学び続けようとする意欲を高めることができるよう、子どもの思いや願いに応じた授業改善を図ることが重要です。

■確かな学びの基盤として　～生徒指導の機能を生かした授業～

□自己決定の場を設定する

○興味や関心を持ち、自ら学びに向かうことができるよう、資料や教材提示の仕方を工夫する。
○課題解決のための思考などの場面において、自分の考えを持つことができるよう、視点を示し、発問を工夫する。
○課題に対して学習方法や表現方法を選択する場面を設定したり、個で考える時間を十分に保障したりする。
○振り返りの視点を具体的に示すことで、学びの成果を実感したり、新たな課題に気付いたりできるようにする。

□自己存在感を持たせる

○前時の振り返りを活用するなど、一人ひとりの学習の成果が本時の学習に結び付いていることを実感できるようにする。
○子どものつぶやきや反応を大切にする。
○個々の考えのよさについて具体的に取り上げ、価値付ける。
○一人ひとりの学習状況を見取り、つまずきに対して適切な支援を行う。
○子ども一人ひとりの成長を認めたり、取組の姿勢を称揚したりする。

□共感的な人間関係を育成する

○子どもの疑問を取り上げるなど、共に課題解決に取り組む必要感が生まれるよう学習課題を設定する。
○友達の意見を最後まで聞くなど、学習の約束を大切にし、誰もが自信を持って意見を述べることができるようにする。
○互いの考えを生かして、よりよい考えを導き出すなど、集団で学ぶことのよさを実感できるようにする。
○子どもの振り返りを意図的に取り上げ価値付けることで、互いのよさに気付いたり、認め合ったりすることができるようにする。

□安全・安心な学びの環境をつくる

○話したり聞いたりするときの言葉づかいや態度に配慮するなど、互いの考え方を尊重し、認め合う環境づくりに努め、子ども一人ひとりが安心して学習することができるようにする。

■「わかった」「できた」を実感でき、「もっと学びたい」につながる授業へのアプローチ

子どもたちが課題を解決したときの達成感や学んだことの意義を実感でき、主体的に学び続ける意欲を高めることができるよう、授業での子どもの思いや願いに応え、学習の進め方や表現方法を選択する場を設定するなど、教師の働きかけを工夫することが重要です。

＜子どもの思いや願い＞

- なぜだろう、不思議だな
- おもしろそう、早くやってみたい

- どうやったら解決できるだろうか
- 前に学習したことが使えないだろうか

- じっくりと考えてみたい
- 詳しく調べてみたい
- 友達の話を聞いてみたい

- 自分の考えを話したい
- 他にどんな考え方や方法があるか知りたい
- もう一度教えてほしい

- どうやったらうまく説明できるだろうか
- 友達の考えを使ってみたい

- できるようになったか確かめてみたい
- もっと難しいことに挑戦してみたい

- 分かったこと、できるようになったことがうれしい
- どうすればもっとうまくできるだろうか
- 次の時間ももう少し考えてみたい

わかった

できた

もっと学びたい

- 新たに気付いたことや友達の考えを取り入れ、よりよい方法を考えている。
- 学習したことの有用性を実感し、活用しようとしている。
- 課題を解決する過程で、新たに生じた疑問などについて課題意識を持っている。
- 自分に合った学習の仕方を見いだし、次の学習に生かそうとしている。

＜教師の働きかけの例＞

- 資料の提示を工夫するなど、単元や題材の導入を工夫し、子どもの興味や関心を高める。
- 子どもの疑問を取り上げ、ねらいに迫ることができるめあてや学習課題を設定する。
- 日常生活や既習内容との比較、関連付けをしながら、解決の見通しを持つ場を設定する。
- 課題解決に向けて、図書資料やＩＣＴ等を活用して個で考えたり、友達と意見交流したりするなど、学習の進め方を選択できるようにする。
- 子どもの学習状況に応じて、ペアで確認する場や、学び直しの場を設定する。
- 話し合う内容を焦点化し、子どものつぶやきや反応などを生かした話合いの場を設定する。
- 多様な考えを意図的に取り上げ、価値付けた上で、思考の過程に着目する場を設定する。
- ＩＣＴを活用してグループの考えを整理したり、ホワイトボードに考えをまとめたりするなど、表現方法や発表の仕方を選択する機会を設定する。
- 考えの根拠を引き出す問い返しや思考を深める発問を工夫する。
- 学習内容の定着を図る場面では、ＩＣＴ等を活用し、子どもが自分に必要な内容を考え、選択できる場を設定する。
- 学習の過程を振り返り、互いの考えのよさを認め合う場面を設定するとともに、子どもの変容を価値付ける言葉がけをする。
- 子どもの記述や発表から、既習内容や他教科との関連を取り上げたり、学んだことの有用性を実感できる場面を紹介したりする。

2－2　ＩＣＴを活用した教育の推進

子どもたちの学びをより豊かで広がりや深まりのあるものにするためには、課題解決の方法を子ども自身で決めたり、新たな課題を発見したりするなど、自ら学びを進めることができるよう、各教科等の学習でＩＣＴを積極的に活用して、適切に情報を選択する力や、得られた情報と自分の発想とを組み合わせて新しいものを生み出す力を身に付けさせることが大切です。

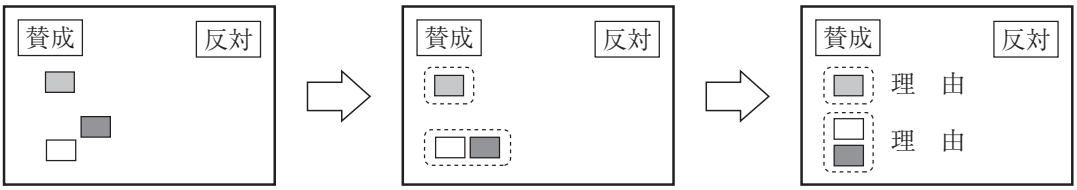
また、子どもがＩＣＴを日常的に活用できるよう、全教職員でタブレット端末等の活用方法について共通理解を図ったり、スキルの向上に努めたりすることが必要です。

■各教科等の学びを深めるために

＜学習場面に応じた取組例＞

話合いの過程を可視化しながらグループの考えを説明する

①最初の考えを伝える。　②話合いの過程について、画面を共有しながら説明する。



協働学習支援ツールでは、付せんやメモなどを貼り付けたページを順番に表示することができます。グループでの話合いについて発表する際、結論だけでなく、話合いの過程についても全体で共有することで、多面的・多角的な思考力の育成につながります。

自分の学習の理解度を確認し、必要とする学習内容や学習方法を選択する

①アンケート作成ツールによる小テストを実施する。　②学習内容や学習方法を自分で選択する。

この単元で学習した文法については理解できたので、新出単語や本文の読み方を復習したい。

スペルの間違いが多かったので、問題練習に取り組んだあとで、もう一度小テストに挑戦したい。

- デジタル教科書の本文再生機能を活用した音読練習
- ＡＩ型ドリルでの問題練習
- 教科書の題材に関する情報を収集するためにインターネットで検索

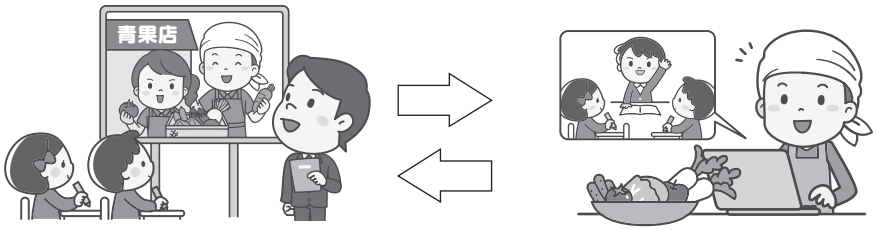
アンケート作成ツールで作成した小テストでは、解答結果をすぐに知ることができます。自分の学習状況を把握し、自分にとって必要な学習活動や学習方法について考えたり、選択したりする機会を積み重ねることで、自分で学びを進める力の育成につながります。

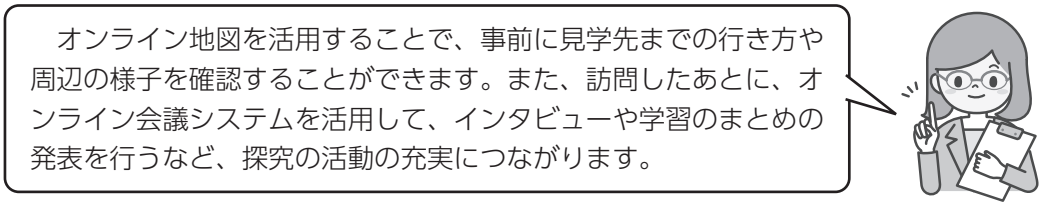
オンライン地図やオンライン会議システムを活用し、情報の収集や発信を行う

「小学校３年社会科：物を売る仕事」

①オンライン地図を活用し、画面上で見学先の様子を確認する。

②オンライン会議システムを介して、相手とやりとりする。





■ＩＣＴの日常的な活用のために

□学びを支える力をはぐくむ取組

- 小学校低学年からキーボードによる文字入力やインターネットでの検索方法等を練習する機会を設けるなど、子どものスキル向上を計画的に進める。
- 情報モラルやインターネットの適切な情報発信について学ぶ機会の充実を図るなど、子どもが自ら判断し安全にＩＣＴを活用することができるようにする。
- タブレット端末の活用例を提示するなど、子どもの学びが家庭でも継続できるようにする。
- 子どもが小中９年間で段階的にスキルを身に付けることができるよう、小・中学校が共通理解を図り、連携しながら自校のスキル体系表を作成する。

□教員のＩＣＴ活用を推進する取組

- 機器の操作方法や効果的な活用方法等について情報共有するなどし、ＩＣＴ活用のスキル向上に努める。

  （例）・日常的にＩＣＴを活用した授業を見合う機会の設定

  ・オンライン会議システムを活用した小中合同会議等の実施

  ・協働学習支援ツールを活用した校内授業研究会等での協議

- ＩＣＴの活用記録を蓄積し、効果的な活用のあり方について校内で共有する。
- 円滑にＩＣＴを活用することができるよう、各種設定やトラブルへの対応について、ＩＣＴ支援員と連携して対応する。

２－３　グローバル化に対応した教育の推進

多様な考え方を受け入れ、他者と協働してよりよい社会を創造しようとする態度をはぐくむためには、自国の伝統や文化についての理解を深め、様々な文化や価値観にふれる機会の充実を図るとともに、広い視野で物事をとらえ、課題を探究するための学習活動を推進することが大切です。

また、世界の人々と思いを伝え合うことができるよう、コミュニケーション能力を高める英語教育の充実を図ることが重要です。

■様々な文化や価値観、生き方にふれる機会の充実

□地域の人々や専門家の協力を得ながら、日本やふるさとの伝統、文化等にふれ、よさを見つめ直す学習活動の充実を図る。

□様々な国や地域の出身の方たちなど、異なる文化的背景を持つ人々の考え方や生き方にふれ、多様な価値観を尊重するとともに、他者と協働しようとする態度をはぐくむ。

□ＩＣＴを活用し、様々な伝統や文化について情報を収集したり、オンラインで他の地域や他国の人々と交流したりする機会を設ける。

■広い視野で物事をとらえ、課題を探究する学習活動の推進

□各教科等における学習活動の中で、教科横断的な視点で物事をとらえたり、新しいものの見方や考え方に気付いたりすることができる機会を設定する。

□世界が直面している様々な出来事を身近な生活や社会と結び付けて考えることを通して、問題意識を持ち、課題解決に向けて自分ができることに主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。

■コミュニケーション能力を高める英語教育の充実

□外国語活動、外国語（英語）科の授業における言語活動を通して、自分の思いが相手に伝わる喜びや、相手の気持ちや考えを理解する喜びを感じられるよう、他者とのやり取りを大切にした授業を構築する。（→Ｐ４９外国語（英語）科、Ｐ５３小学校外国語（英語）活動参照）

□実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能等を身に付けることができるよう、ＡＬＴと共に活動する場面を増やすとともに、校内にイングリッシュコーナーを設置するなど、英語にふれる機会の拡充を図る。

□小学校外国語活動・外国語科と中学校外国語科の学びの系統性を踏まえた指導の充実を図る。

異なる文化や英語にふれる機会の充実

＜イングリッシュコーナー＞

・外国の文化に関する写真やイラスト、クイズなどを紹介し定期的に更新した。

・校内のポストを活用し、ＡＬＴと英語での手紙のやりとりを楽しんだ。

＜イングリッシュスクール＞

・複数のＡＬＴを講師として自校に招き、外国と日本の文化の違いにふれる活動を実施した。

・全校児童が異学年交流のグループとなり、クイズやダンス、創作活動を通して、各国の文化や習慣についての理解を深めた。

◆イングリッシュスクールについて→学校間共有フォルダ>99_教育委員会>54_外国語・外国語活動部会